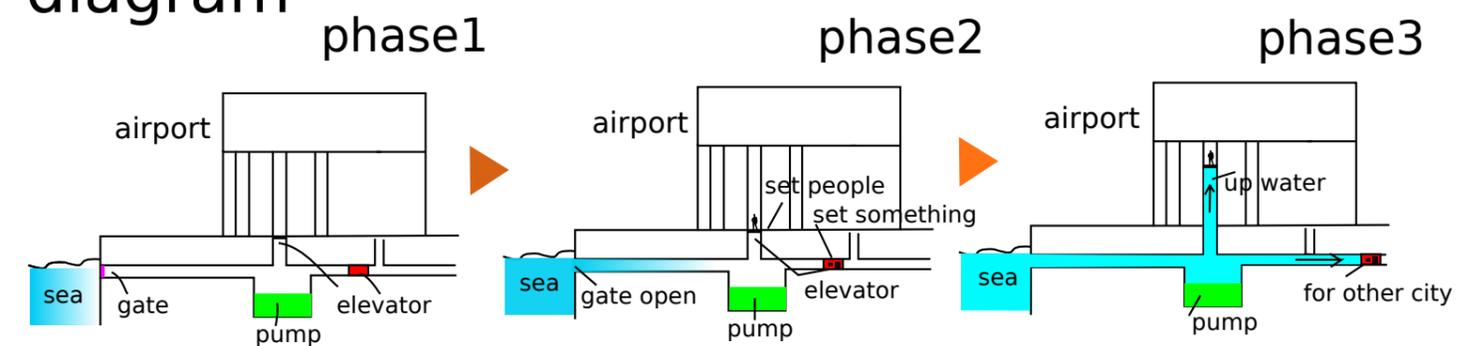


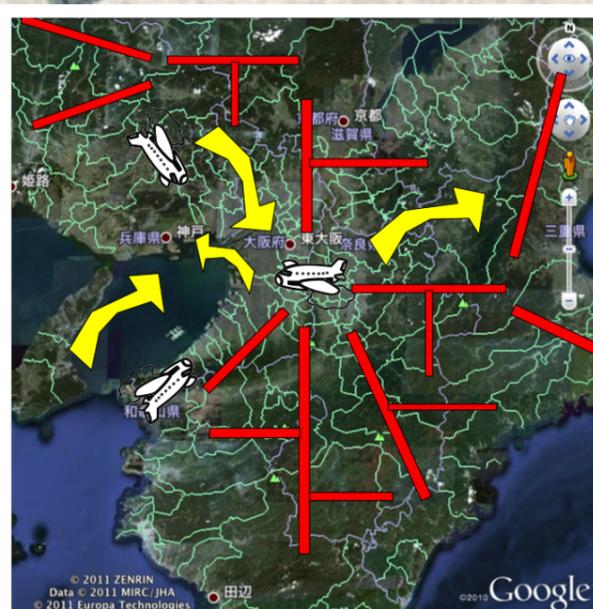
diagram



舞台は空港。
この空港には縦方向に
建物内部の
人を運搬するエレベーターがついており、
地下では横方向に
物資を運搬するエレベーターがついている。

人と物資がエレベーターに乗り込むと、
海に面したゲートが開き、
海水が入ってくる。
そして、その海水にまぎれて
海の生物たちも入ってくる。

ポンプが作動し、水の水圧により
エレベーターは上昇、移動していく。
横方向のエレベーターは
物資を他の地域へと運んで行く。
エレベーターを下ろすときは
ポンプを逆回転させ、
海水を外に出す。



↑: エレベーターアクアリウム
海水の水圧を利用したエレベーターの仕組みは、
水と同時に海の生き物たちも取り入れる。
それにより、エレベーターはアクアリウムのような役割をし、
パスとともにノードの役割を果たす。

←: エレベーターネットワーク
エレベーターによって、地域と地域がネットワークを形成して行く。
これにより、非常時でも海水の力を利用した物資の運搬が可能になる。
災害時などは飛行機がエレベーターに物資を届け、
エレベーターが防災センターや避難所に物資を届けるしくみである。

タイトル EENA

まず、EENAとはelevator, ecology, network, aquariumの頭文字をとったものである。今回の提案のキーワードとなる4つである。

今回、海水の水圧を利用した、水圧式エレベーターを提案する。ほとんどの空港が海に面している、もしくは近い立地にあることを生かし、海の力を使ったエコなエレベーターを提案した。これは縦方向と横方向どちらの移動も可能であり、縦方向では主に、施設内部の移動。横方向ではエレベーターを使った交通や運搬としての都市間の移動を可能にする。もちろん海から離れるごとに水圧は減っていくが、別に海水である必要はなく、海から離れたところでは川の水を利用することもできる。これにより、エレベーターがネットワークを形成し、新しい交通の形となる。また、この提案を考えるにあたり、災害というものがキーワードになった。災害をエレベーターでどのように結びつけるかを考えたときに、2011年の東北大震災では原発問題により、本当に支援が必要な地域には危険区域として立ち入りが禁止されていた。そのため物資の供給が遅れ、二次災害が多発した。この提案のエレベーターを使えば、エレベーターが自動で物資を運搬してくれるのでそのような事態になったとしても物資がいきなり、二次災害を防止できると私は考える。

そして、もう一つの見どころとして、エレベーターを利用したアクアリウムがある。エレベーターを移動させるために海水を施設内部に取り入れることで、それにもない海の生物も入ってくる。それが天然のアクアリウムを作ることによって、今まではパスの役割しか持たなかったエレベーターがノードとしての役割を持ち、新たな可能性を示唆する。ちなみに、このEENAというタイトルは、「こんなエレベーターがあったらイイナ」という思いを込めてつけられた。

- ・どのような人が利用できるか

すべての人が利用できる。

- ・どのような場面で

日常時は交通の便として、災害時には物資の供給として、都市のいたるところで。

- ・どのような体験ができて

エレベーターという日常のパスではなく、水族館にいるような非日常的な体験。

- ・今の交通体験とどう違うか

今の交通機関はどれも運搬という役割しかしておらず、また、操縦者なしではありえない。しかし、エレベーターを交通として使うことによって無人でも動くし、かつ、エレベーターを見て楽しむという役割ができる。